



学校だより

平成29年 4月 6日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.469

親の小言となすびの花は千に一つの無駄もない

校長 谷田 弘子

3月24日に121名の卒業生を送り出し、本日ピッカピカの新1年生が98名入学しました。平成29年度の始まりです。

学校のサクラは、開花してから寒い日が続いていましたので、入学式には満開に近い状態で残りました。春本番、いろいろな花が咲き誇り、気持ちが高まる4月です。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昔、担任をしていた頃、「親の小言となすびの花は千に一つの無駄もない」という言葉をみんなに教えたことがあります。この言葉の意味は、茄子の花は咲いたら必ず実が付いて、実にならない花はない。親の小言もすべて自分たちの育つ上で大切なことを言っているのだから、無駄なことは何もない。

「親の小言」と「茄子の花」は同じだということです。このことを授業で学級の子供たちに話してからしばらくたって、保護者会がありました。ある女の子のお母さんが、

「先生、この間の母の日に、うちの子が茄子の苗をプレゼントだと言って私にくれました。なぜ、母の日のプレゼントがカーネーションではなく茄子の苗なのかなと思ってよく見たら苗の所に短冊のように紙が付けてあって、そこには、『親の小言となすびの花は千に一つの無駄もない』と書いてあったのです。」

『どうしてこんな言葉を知っていたの。』と子供に聞いたら、『先生が教えてくれたの。』と言っていたのです。私は嬉しくて、もらった茄子の苗を大切に育てています。」と、言ってくれたのです。

今の子供たちはどう感じるのでしょうか？そして、親として無駄のない小言を言っているのでしょうか？このことわざの「親」というの

は、お家の方々だけでなく、子供たちを見守ってくださるすべての方々だと思います。

学校での児童の「親」は誰でしょうか？担任の先生、専科の先生、事務の先生、主事さんたちです。田二小の児童の成長を願い、児童のことを思って、いろいろと小言を言うこともあると思います。そのような時に、「うるさいなあ」とか「めんどくさいなあ」などと思ったり文句を言ったりせずに、「親の小言と茄子の花は千に一つの無駄もない」を思い出して、素直に聞く子であってほしいと思います。

あの授業から20年以上たちましたが、時々この言葉を思い出すと、担任をしていた学級の児童のことを思い出していました。

そして、つい先日、その時に担任をしていた学級の教え子の一人が、家を訪ねてきました。家のチャイムが鳴って出て行くと、大人になった男性が立っていました。後ろには若い女性と二人の小さな女の子がいました。奥さんとお子さんでした。「ぼく、田二小の学区に家を買って引っ越してきました。子供はまだ小さいですが、ゆくゆくは田柄第二小に入学することになります。田柄第二小学校のホームページを開いてみたら、先生が校長先生だということが分かり、そろそろ退職かなと思い、心ばかりのプレゼントを持ってご挨拶に来ました。」と、話していました。いろいろと会話をした中で、このことわざのことも覚えていてくれました。

平成29年度も、自分に関わってくれる多くの人たちから、いろいろな小言を言ってもらい、学びながら大きく成長していってほしいと願っています。